

平成26年度 学校自己評価システムシート (県立大宮東高等学校)

目指す学校像	文武両道を旨とし、正義感溢れる心身ともに健康な生徒を育てる学校
--------	---------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の能力を最大限に引き出す授業を実践し、確かな学力の定着を図る。 2 組織的・計画的なキャリア教育を通して、生徒が主体的に進路を実現できる能力を培う。 3 生徒指導の充実と部活動等の活性化を図り、高い規範意識と豊かな人間性を持った生徒を育成する。 4 保護者や地域と密接に連携し、地域に信頼される開かれた学校づくりをする。
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	2名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標				年 度 評 価 (1月30日現在)			実施日	平成27年2月6日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	□現状 ・生徒の80%近くが授業に「満足」しているものの、主体的に授業に取り組めない生徒もいる。 ・家庭学習時間が概ね30分以下の生徒が約8割いる。 □課題 ・わかる授業の実現に向けた授業改善・授業研究の一層の充実。 ・確かな学力の確立と自主的な学習態度の育成。	生徒の主体性を育む学力向上の取組	①教員の一層の授業研究・教科毎の授業研究の推進。 授業アンケートの活用。 ②学校全体で8:30から10分間の朝勉に取り組ませるとともに、授業以外で毎日1時間以上の学習に取り組ませるなどして、学習に対する意識の向上を図る。	①生徒、保護者の授業満足度。 ②主体的に授業に取り組む生徒の割合。生徒の平均学習時間。	①生徒の授業満足度84.5%(+5.3P)、保護者の授業満足度86.1%(+2.5P)。学校全体で年2回の授業アンケートを実施し、結果をもとに授業改善を行った。各教科での授業研究月間での研究授業を例年並みに実施した。 ②主体的に学習に取り組んでいる生徒は78.1%(+8.9P)。家庭学習時間1時間未満と回答した生徒が約80%いる。	B	生徒自らの進路意識をさらに高め、学習に主体的に取り組む生徒を増やし、文武両道をさらに実践させる必要がある。 引き続き「家庭学習1時間」に関する指導に取り組んだが、なかなか実現は難しい。朝学習や休み時間に行う学習などを含めた「授業以外の学習時間」が確保できるような方策も必要である。来年度以降も自らの課題に主体的に取り組むよう指導に努める。	・自宅が遠くても一生懸命部活動に取り組んでいる生徒もいる。そういう生徒の支援にも期待する。 ・「家庭学習1時間」の浸透には時間がかかるかもしれないが、「授業以外の学習時間の確保」などの方策を、今後とも生徒に訴え続ける必要がある。
2	□現状 ・2年次から分野毎に細かく指導している。生徒の70%近くが現状に満足している。 ・就職・公務員は難化。進学ではチャレンジ精神が不足している生徒もいる。 □課題 ・生徒一人一人の多様な進路希望を実現するキャリア教育の充実。 ・保護者への的確な進路情報提供 ・生徒への個別指導の一層の充実	生徒の主体性を引き出す進路指導の充実	①学校全体での組織的かつ3年間の継続的な進路指導を実践する。 ②キャリア教育の充実を図り生徒の進路意識を向上させる。	①生徒の主体性を育む進路行事等の実践。進路だより等の発行回数。 ②進路指導に対する生徒・保護者の満足度。	①進路指導部を中心に3年間の体系的・組織的な進路指導が行われている。3年生は、就職希望者の内定100%のほか88%(±0)が進路を決定している。難関国公立大を目指す者など、残りの者も進学に向けて努力している。 3年生向けの進路だよりは、年間15回発行した。 ②生徒の進路指導満足度は、74.7%(+5.2P)、保護者の進路指導満足度は、83.1%(+0.6P)であった。	A	3年間を見通した体系的・組織的な進路指導は、すでに確立されている。しかし、難関大学を志望する者、専門学校を志望する者、民間企業への就職を望む者、警察官など公務員を志望する者など、本校生徒の進路希望は多岐にわたっている。そのため、個別にかつきめの細かい指導が必要である。進路指導部はもちろん、全職員が適切な進路指導を行う能力を向上させる必要がある。	・1年生から3年生まで系統だった進路指導がされており、生徒の自己実現に向けた取り組みが適切に行われている。 ・進学希望者、就職希望者に対して、それぞれ個に応じた粘り強い指導が行われており、生徒・保護者の満足度が高くなっていると思われる。 ・引き続き、生徒の学習環境の整備に努め、学習意欲の向上につなげて欲しい。
3	□現状 ・基本的生活習慣等は概ね確立している。 ・8割の生徒が部活動に加入し、県大会や関東大会等で活躍している。 □課題 ・より一層の規範意識の育成。 ・部員一人一人を一層大切に、更なる生徒の主体性を育み、部活動の活性化を図る。	規範意識を高める生徒指導の充実 豊かな人間性を育て、目標に向かって努力する部活動の活性化	①生徒指導部・学年・家庭の連携による生活指導と交通安全指導を徹底する。 ②部活動顧問の指導力の向上などにより、関東大会等上位大会への出場実績を維持・向上させる。	①指導件数、交通事故数。 交通安全指導の充実。指導内容及び回数。 ②部活動の実績。 生徒、保護者の部活動満足度。	①生徒指導件数(人数)は昨年度から半減した。生徒主体の自転車マナーアップ講習を実施し、また保護者と連携した交通安全指導を毎学期実施した。このため、登校途中の事故はほとんど発生しなかった。 ②各部活動が互いに切磋琢磨し、学校全体で部活動の状況が活性化している。関東大会及びインターハイ県予選ベスト8以上32件(▲2件)。関東大会出場件数10件(▲1件)、インターハイ出場件数3件(▲2件)。生徒の部活動満足度は73.9%(+4.7P)であった。	B	転退学者も大幅に減少し、学校全体が落ち着いた雰囲気の中で部活動、勉強、行事に取り組んでいる。今後とも仲間を大切にすることを育てていく必要がある。事故、苦情とも減っているが、引き続き自転車のマナーアップについて、ことあるごとに指導する必要がある。	本年度から、文部科学省「部活動指導工夫改善事業」として女子栄養大学及び平成国際大学の指導のもと、指導方法の改善・研究をスタートさせた。学校全体で相互に高め合う雰囲気づくりのきっかけとしたい。
4	□現状 ・多様な方法、機会を通じて情報発信に努めている。 ・小学校や自治会等の交流、学校評価懇話会を通して開かれた学校づくりを推進している。 □課題 ・本校の理解を深める広報活動の一層の推進 ・地域の中で生徒の活躍の場を少しでも多く確保する。	地域に信頼される開かれた学校づくりの推進	①ホームページやメール配信などを通じたタイムリーかつ確かな教育情報を発信する。 ②学校説明会等を通じた広報活動を強化する。	①ホームページ更新回数、アクセス数。メール配信数。 ②学校説明会参加者数及び内容。	①更新回数はトップページだけでも131回(+16回)を数えた。アクセス数は393,348回(+216,990回)と激増している。本校の教育内容を外部に理解していただく重要なツールとして今後とも活用していく。また、平成25年度に導入した配信メールは、配信回数48回(+11回)、配信メール数32,783通(+18,453通)であった。 ②参加者数は、5回の合計で2,574名(+528名)であった。	A	ホームページ更新回数、メール配信数とも数を飛躍的に伸ばした。これらについては、相乗効果により、より良い情報発信となっている面があると思われる。開かれた学校づくりのため、今後ともは継続して取り組んでいく。 学校説明会では、引き続き中学生並びにその保護者の立場に立って実施時期の設定や内容を構成する必要がある。	・ホームページが頻繁に更新され、また、メールも配信されるので、保護者には情報がよく伝わっているようだ。引き続き、情報発信に努めてもらいたい。 ・本校の行事については、地域の関心も高いので、自治会の回覧版などを一層活用してはどうか。 ・学校説明会の開催時期の検討などを進め、参加者が増えるような取り組みを行って欲しい。